さまざまな言語表現を素材として、人間のこころにある「言語」の仕組みを明らかにする研究

国際関係学研究科
（大学院）比較文化専攻　**長野　明子**

- 連　絡　先　　E-Mail：nagano.9@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ　https://researchmap.jp/7000004456

（本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。
TEL：054-264-5124　E-Mail：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp）

キーワード

文法，語彙，普遍性と多様性，名づけ，言語接触

現代言語学の最終目標は、人間のこころにある抽象的で複雑な体系としての「言語」に到達することである。しかし、登攀ルートとしては、身近にある非常に具体的な言語表現やコミュニケーション活動をよく観察すること以外に近道はない。私の研究では、【単語】や【名前】のレベルを中心にして、具体事例からメタ的な構造をとりだすことを行っている（図１）。近年取り組んでいるのは、日本語と英語といった異なる２つの言語が混交する現象である。図２にあるのは、国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータセット」を用い、クックパッドでの料理名や料理手順の説明に、どのような文字がどの程度使われているかを調べた研究である。また、日本語の地域方言の豊かさに注目し、福岡県や熊本県のシルバー人材センターとの共同研究も実施してきた。

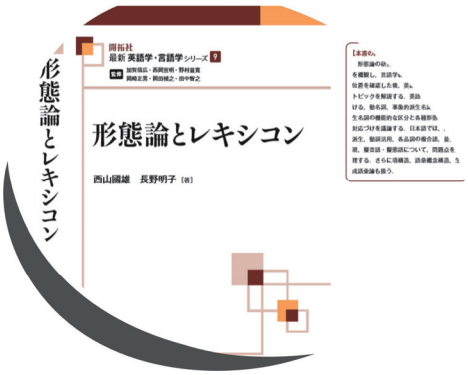

図１　言語理論についての研究
西山・長野（2020）『形態論とレキシコン』開拓社、東京.

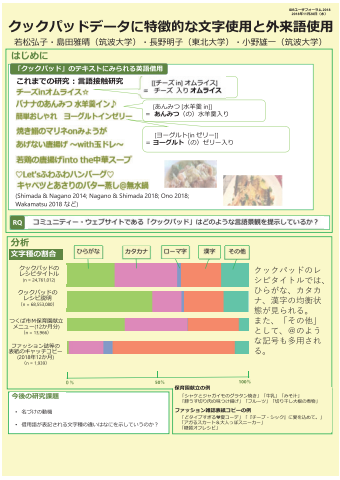

図２　レシピサイト Cookpad からわかる日本語と英語の混交の様子
国立情報学研究所　IDR ユーザフォーラム 2018での発表の一部

アピールポイント

- 言語のビックデータ研究を行いたいのだが、言語学の基礎知識なしに行うのは不安という場合
- 使おうとしている英語（的）表現、カタカナ語名称の「言語的妥当性」を知りたい場合
- ことばに関することはだいたい何でも興味があります